

編集後記

年の初め、TVの喧騒をはなれ、ラジオや新聞で新春の清々しい気分になれた。印象に残ったところから。ソ連の作家エフレ・モフの著作の中から。意志が習慣をつくり、習慣が性格をつくる。そして性格は運命をつくる。／新年、心新たに今年の目標などに思い巡らす時含蓄ある言葉であるが凡人には衝撃的。野村監督と岡田監督との新春対談から。[野村] ルールを守らせながら育てる、礼とか義から始める。規律と秩序を乱すのは組織からはねる。感じる力を鍛える。感動とは、感即動、感じたら即動く、まず行動せよ。監督の姿勢を知らしめる、監督自身が進歩、監督が変わればチームが変わる。選手は納得して始めて動く。[岡田] Jリーグになって精神的プロフェッショナルなベースができた。プロは拘束されているから金をもらえる。サッカーに正解は無い、これでゆくぞというのが監督、ついてこないやつはいらない。今の自分を信じて可能性ある限りベストを、劣っていても100%の力を出せたら相手は100%出せない、したがって必ず勝機ある。／不可能を可能にした組織の運営についての共通点は、監督の考え方・方向性を選手に浸透させ、迷いを除いて100%以上の力を発揮させたこと。唐津一東海大教授の話「日本の底力は技術にあり」。人工資源国ジャパン。例として、

厚み精度5 μ mの0.2mm薄板鉄板、ボールベアリング、セラミックパッケージ、シリコンなど日本の技術が世界市場を席捲しているものがまだまだたくさんある。独自の技術を生み出す風土を大切に。／小学生の頃、日本は加工貿易国であると教わった。子供心に物作りのもつ意義を感じとり、技術者としての将来を心に描いた記憶がある。基本は不変。東京新聞丸山庸雄氏の論説「漂流する日本」。奇跡的な経済発展と引き換えに「恥の文化」を無残なまでに風化させてきた。知性や品格、清廉への畏敬、正道や誇りを堅持して歩む気風が衰退した精神の荒野に、奇形のモラルや価値感が領域をひろげている。(中略)温故知新のひそみに倣い、まず初めに、明治創業者の気概と伝統文化の薫りを訪ねたい。きっと、現代の漂流からの出口が示唆されるに違いない。／同感。価値観の刷り込みは親から、したがって基本は家庭教育だが、親のあり方が漂流しているか。子孫、後輩に何を残すか、自らも問うてみたい。東京新聞コラムから。笑う門には福来る。日々の生活の中で、無駄にすごした日があったら、それは笑わなかった日だ。／免疫力を増すためにたまには寄席にでも足を運ぶのもよからう。(T.K.)

アンリツテクニカル編集委員会

編集委員長 / 大石 迪夫

編集副委員長 / 永井 治男

編集事務局 / 和田 治千

笹尾 紘一

編集委員 / 榎原 茂

石積 清博

庄司 耕治

野村 稔 高橋 福幸 栗本 猛男 増山 恒美

鷲見 孝則 佐藤 由紀夫 戸田 博道 森 秀夫

本多 勝久 小林 貞夫 小島 利治 篠原 八郎

アンリツテクニカル

75

1998年3月31日 発行(年2回発行 非売品)

発行人 大石 迪夫

発行所 アンリツ株式会社

〒106-8570 東京都港区南麻布五丁目10番27号

TEL (03) 3446-1111

1998年3月30日 印刷

印刷所 株式会社 文祥堂

〒108-0073 東京都港区三田五丁目3番7号

アンリツ株式会社 1998 無断転載を禁じます。

問合せ先 アンリツテクニカル編集事務局

〒243-8555 神奈川県厚木市恩名1800番地

アンリツ株式会社 技術本部開発企画室

TEL (0462) 96-6522